

施設カンキツにおける「赤色ネット」のアザミウマ類侵入軽減効果を検討しています！

【研究のポイント】

【施設カンキツにおけるアザミウマ類の被害】

アザミウマ類は、カンキツ果実を加害する微小害虫で、特に施設栽培においてはミカンキイロアザミウマやネギアザミウマ、ハナアザミウマなどの被害が問題になっています。

園外に生息していたアザミウマ類成虫が、サイドビニール開放時に施設内に侵入し、施設内で増殖を繰り返しながら加害します。

【なぜ赤色ネット？】

アザミウマ類は青や黄色を認識し誘引されますが、赤色は認識できません。そのため、侵入経路とされるハウス側面開口部に赤色ネットを張るとハウス内が真っ黒に見えるため侵入を軽減できると考えられています。県内では、イチゴ施設で導入実績があることから、施設カンキツでも外部からの侵入軽減に有効ではないかと考え、試験を実施しました。



アザミウマの被害



ミカンキイロアザミウマ

【グループ内試験】

ポットに植えた温州ミカン9樹をハウス内に配置し、赤色ネット(0.8mm目)被覆区、白色ネット(0.8mm目)被覆区、ネット無しの無処理区の3区を設け、グループ内で採取したアザミウマ類成虫100頭ずつをプランター4カ所に2回放虫し、ネットで覆った内側に設置した粘着トラップ(青色、黄色)への誘殺頭数を調査しました。(図1)

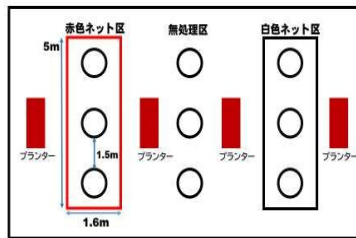


図1 ハウス内見取り図

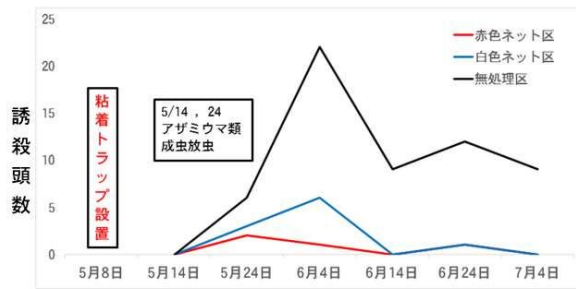


図2 アザミウマ誘殺頭数の推移

【研究の成果】

調査の結果、赤色ネット被覆区では、白色ネット被覆区、無処理区よりもアザミウマ類の誘殺頭数が少なく、ネット内側への侵入が軽減される可能性が示唆されました。(図2)

【現地試験】

グループ内試験の結果を基に、杵築市の「天草」生産者3戸(各10a)において、赤色ネット区(0.8mm目)、白色ネット区(0.8mm目)、慣行ネット区(4mm目)の3区を設置しました。サイドビニール開放後からハウス内・外に設置した粘着トラップで、アザミウマ類の誘殺状況を定期的に調査し、現地圃場における赤色ネットの侵入軽減効果を調査中です。また、各ハウス内外に温度計を設置し、気温を計測することで、慣行よりも細かい目合いのネットが、通気性などハウス内環境に影響していないかについても調査します。



現地試験圃場(赤色ネット区)

【生産者の声】



生産者 菊池さん

赤色ネットの飛び込み防止効果によって、薬剤散布回数が減ることを期待しています。散布回数が減ることで天敵を導入しやすいことや、他品種が繁忙期のときにアザミウマの増加を抑えられることが大きなメリットだと思います。

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 果樹グループ 温州ミカンチーム
TEL：0978-72-0407
住所：大分県国東市国東町小原4402